

“段ボール箱は大活躍” “段ボール箱は大事なパートナー” と図書館員の四季で堀江さんが書かれています。

そういえば、段ボールと図書館員はよく似ているところがあるのでは・・・と感じました。

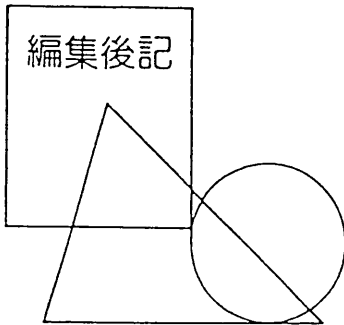
／一生懸命頑張っているのに、あまり表舞台には登場しない。

／職場でも重宝されているのにあまり大切にされない。

／ボロボロになるまで働く。

／地味で目立たない。

／いらないときには誰も一人振り向いてもらえない



これからは、段ボールを大切にしなければと反省。そんな彼らにはきっと私たち図書館員の気持ちも理解してもらえるような気持ちしてきました。皆さんもまわりの段ボールをいたわってやってください。

しかし、これからは“ささやかだけど段ボール図書館員の反乱”もしていけないといけないなと同時に感じています。段ボールではない図書館員の存在を多くの利用者にアピールして、その役割やその専門性について、共感できる利用者を増やしていことも大切ではないでしょうか。

皆さんはどう思われます？

(前田 元也)

---

病院図書室 第17巻 第2号

季刊

1997年5月30日 発行

定価 ￥1,500 (年間購読料 ￥6,000) 送料込

発行所 近畿病院図書室協議会

〒612 京都市伏見区深草向畑町1-1 国立京都病院図書室 気付

TEL (075) 641-9161 FAX (075) 643-4325

印刷所 (株)小西印刷所 〒663 西宮市今津西浜町2-60

TEL (0798) 35-1331 FAX (0798) 35-1333

---